

# 焼肉弁当、予想超す人気!

## 子ども食堂「えがお」 大昌園から200食届く

### お土産もお菓子の山

▶受付開始と同時に行列がでる人気ぶり▼お土産のお菓子の選択に悩む子どもたち(赤松公民館)



## どれにしようかなー?

10月22日の子ども食堂「えがお」は子どもたちが大好きなお肉、焼肉の「大昌園」さんから焼肉弁当200食が届きました。2年前に続き2回目、同店から「子どもさん限定」というお願いだったため、今回は高齢者はお断り。赤松と付属小に先着順で希望を取ったところ、1日で締め切り、予想を超えるすさまじい人気でした。当日も受付は行列、フードバンクなどからお菓子のプレゼントもたくさん寄せられ、急ぎよ「お菓子のテーブル」作り、好きなものを選びました。



子どもたちに配られた豪華な焼肉弁当

コロナ発生3年目の今年度は、赤松まちづくり協議会も役員が何人か交代され、しばらく大変でした。でも残った人、新しく参加された方が力を合わせ見事なチームワークで、10月のお堀灯ろうまつりを昨年の2倍以上の灯ろうを浮かべるなど“大成功裏”に終わりました。並行して11月の鯉の門まつりも準備。この広報が届くころには皆さんがご満足いただいた

### 赤松の団結力に安堵

赤松まちづくり協議会 会長 蘭 晴男



と確信しており、改めて赤松の団結力と底力に安堵しています。ところで私ごとで恐縮ですが、今年度をもって会長職を退こうと考えています。東城内自治会長20年、うち校区自治会長会会長8年、そしてまちづくり協議会は設立から丸5年、会長職を努めてまいりました。この間を振り返ると、高齢者・子ども・防災という地域活動の3本柱はどれも格段に充実。これを支える人材も豊富です。残る半年でさらにこれらの課題を強化、後任の会長職を担っていただく方を探していきます。

下記は校区の民生児童委員です。高齢者や子どものこと。お気軽にご相談ください。▼

◎会長	◎江口佳子(主任児童委員) ○西村邦昭(東水)、 ○原田秋代(南水)
○副会長	◆濱野京子(南堀) / 江口尚子、坂井洋子(北水) / 森富代子(南水)
◆会計	深川謙二(新道)/市丸康子、後藤美代子(東城内)/田中みどり、藤瀬佐多子(中の館) 西村律子(西城内)/ 安西 知子、井崎 裕文(鬼丸) / 福田まるみ(北堀) / 荒金 健次(与賀町)



# 赤松花いすか

～思いやる心でつなぐふれあいのまち赤松～

第10号

赤松校区社会福祉協議会 赤松まちづくり協議会発行

## お堀灯ろうまつり

# 南堀に幻想の光1200個!



## 夜のしじま縫い 琴の音やさしく

コロナ禍で昨年までは開催を自粛していた「お堀灯ろうまつり」でしたが、今年はこのままの憂さを晴らすべく、一気に1000個の灯ろうを作成、昨年の残りを加え合計1200個、これまでの3倍を堀に浮かべ、ほとりに飾りました。 一帯は灯ろうと、水面に反射する光の群れがもつれまばゆいばかり。ほとりでは「琴の音会」の7人が文化琴を演奏。彼女たちが紡ぎ出す音色が夜のしじまを縫い、周囲を散策する家族連れやグループを和ませています。

▲南堀西側の水面にびっしりと浮かぶ灯ろうの全景▲その下の写真は堀のほとりで演奏する「琴の音会」の7人▼右は子どもたちが作った色とりどりの灯ろう



3倍超 昨年の

## 蓮の中、ボート遊覧も



県国際課との連携で実現したお堀遊覧。南堀東側を佐賀さいこうフェスの2日間、6人ずつを乗せ26回往復しました

灯ろうは赤松と附属小学校の児童が和紙に絵や字をかいて制作。大人たちがこれをのり付け。県建築士会と赤松まちづくり協議会メンバーが何度も集まって作業を重ね、直前には発泡スチロールの土台に乗せた灯ろうが風で動かないよう、細い針金を使い、水上で固定。当日は中高生や外国人ボランティア180人が加わって準備を整えました。 今年度は県の国際課が参戦。さいこうフェスの2日間、茂る蓮の横をボートで遊覧するイベントを実現しました。県は昨年の観光課、当初から担当する文化課に次いで3つの課が関わる大行事に発展してきました。

会長 蘭 晴男 / 副会長 安西幸彦 / 会計 一ノ瀬成元 / 事務局長 福田伸裕  
赤松まちづくり協議会 役員体制 役員(上)と各専門部会長(下) ☎ 23-6002  
親子ふれあい 秦 慎一郎 / げんき須藤義仁 / あんしん 荒金健次 / まなび 永原光彦 / つながり 福田伸裕



### 市危機管理防災課とスクラム

## 防災対策大きく前進

佐賀市が2月議会で可決した災害避難所モデル地区に赤松が選ばれ、今年度から市と一体



新しい簡易ベッドの作り方を、市職員から学ぶまち協メンバーら（赤松公民館）

市職員が行っている業務を赤松自主防災組織が担っていく計画です。自前のハザードマップをいち早く完成させるなど、これまでの自主的な取り組みに加え、市と連携し、避難所資材の組み立てなどの訓練を繰り返していることなどが評価されました。市内227組織のうち、モデル地区に17カ所が応募しました。採用は赤松と北川副校区だけ。万一の災害の際、一人でも多くの避難を助けるべく「あんしん部会」を軸に対策を進めます。

## 台風11号で早速対応

近年は災害が激甚化の一途。今年も8月28日に台風11号、さらに9月18日にはこれより大型の14号が九州を襲いました。幸い佐賀は大きな被害を免れましたが、この2つの台風で赤松小学校に避難所を開設。担当の市納税課の職員さんと自治会長が

1週間後の12日に集まった30人がパンジー、ノースポール、キンセンカの苗を手分けして植え付け、プランターに水をまいて作業は終了しました。かつては校区老人会が担っていたこの作業。今はまち協の業務です。次回の春には多くのご参加待っています。

## パンジー、ノースポール、キンセンカ 今秋も700苗植栽



プランターの枯れ草を抜き、肥料を入れて混ぜる作業に励む南水自治会長と公民館長さん

赤松まちづくり協議会は、県庁裏からサガテレビ前の本丸通り歩道の両側にある75個の大きなプランターに、この秋も700苗



## 赤松小5年生のフィールドワーク スーパー先人らの活躍学ぶ



写真上は鬼丸にあった銅鳥家の大庭園（観音堂）（かみいそご）、下は鳥義勇銅像前で学ぶ児童ら

赤松小の5年生102人は9月29日、恒例のフィールドワーク（校外学習）として校区内の史跡を巡りました。まちづくり協議会・まなび部会のメンバーらを講師に副島種臣や島義勇ら明治の元勳、戦時でもひるまず楠を守り抜いた福田よしさんから「スーパー先人」たちの遺徳を学ぶための学習を通して、郷土への愛着や、誇りを育てるのが狙い。

説明の各ポイントにはまち協メンバーらを配置。それぞれ個所を約15分ずつパネルや紙芝居などを使って、わかりやすく説明。児童たちも熱心にメモを取りながら聞き、学習しました。

## 子ども問題解決へ新機軸次々 兵庫の主任児童委員が講演

赤松校区社協は6月、「子どもの居場所を週一回開設する」など、児童問題に先進的に取り組む兵庫地区の主任児童委員・古澤貞善さんを赤松公民館に招き、福祉協力員研修会の場でお話をうかがいました。

支援のあり方など探り続けています。さらにもう一人の主任児童委員さんと一緒に毎月1回、A4版裏表にカラー写真を添え、「児童委員だより」を発行。精力的に活動されており、見習うことが多いお話でした。

赤松の地域ぐるみで高齢者対策を進めようとおたつしや本舗城南のリードで始めた地域ケア会議。コロナ禍で2年間休んでいましたが10月28日久々に再開。会議では校区内の病院や医院、企業や商店などにケア会議の狙いを説明して仲間を誘い、地域ぐるみで高齢者対策を進めていくことを確認しました。



写真右も下も、動く鶴を折るサロンのメンバーたち

このサロンでは、22人の会員さんが毎月1回、赤松公民館のフリースペースで趣味や軽い体操に興じられています。参加者の中には軽いなごや足が不自由な方もいらっしやいます。認知や足かけ合の手伝いなど、お互いを支え合っているのが、今年度から就任された古澤さんの会長にも好評です。このサロンでは、22人の会員さんが毎月1回、赤松公民館のフリースペースで趣味や軽い体操に興じられています。

5人は「足が弱くなつて通うのをあきらめかけていただけに、助かります！」。気ばろう会は引きこもりや認知症予防を目的に毎週水曜日の午前中、30人ほどが集まり、ゲームや歌、軽体操を実施。時には公民館を利用する文化サークルのメンバーも交じりダンスや合唱に興じています。



赤松校区社協は6月、「子どもの居場所を週一回開設する」など、児童問題に先進的に取り組む兵庫地区の主任児童委員・古澤貞善さんを赤松公民館に招き、福祉協力員研修会の場でお話をうかがいました。

赤松の地域ぐるみで高齢者対策を進めようとおたつしや本舗城南のリードで始めた地域ケア会議。コロナ禍で2年間休んでいましたが10月28日久々に再開。会議では校区内の病院や医院、企業や商店などにケア会議の狙いを説明して仲間を誘い、地域ぐるみで高齢者対策を進めていくことを確認しました。

赤松の地域ぐるみで高齢者対策を進めようとおたつしや本舗城南のリードで始めた地域ケア会議。コロナ禍で2年間休んでいましたが10月28日久々に再開。会議では校区内の病院や医院、企業や商店などにケア会議の狙いを説明して仲間を誘い、地域ぐるみで高齢者対策を進めていくことを確認しました。



写真右も下も、動く鶴を折るサロンのメンバーたち

このサロンでは、22人の会員さんが毎月1回、赤松公民館のフリースペースで趣味や軽い体操に興じられています。参加者の中には軽いなごや足が不自由な方もいらっしやいます。認知や足かけ合の手伝いなど、お互いを支え合っているのが、今年度から就任された古澤さんの会長にも好評です。このサロンでは、22人の会員さんが毎月1回、赤松公民館のフリースペースで趣味や軽い体操に興じられています。

5人は「足が弱くなつて通うのをあきらめかけていただけに、助かります！」。気ばろう会は引きこもりや認知症予防を目的に毎週水曜日の午前中、30人ほどが集まり、ゲームや歌、軽体操を実施。時には公民館を利用する文化サークルのメンバーも交じりダンスや合唱に興じています。

<b>校区社会福祉協議会常任理事</b>	会長 藤瀬佐多子	副会長 江口佳子	蘭 晴男	栗屋 茂	永原光彦	秦慎一郎
	副会長 福田伸裕	会計 原田秋代	安西幸彦	一ノ瀬成元	須藤義仁	荒金健次

<b>自治会長会</b>	会長 安西幸彦(鬼丸) / 副会長 宮崎和雄(北水)、西村律子(西城内) / 会計 八田博(南堀) / 蘭晴男(東城内)
	長谷川義高(東水) / 山田直好(新道) / 田中唯史(中の館) / 吉川隆(南水) / 福田伸裕(北堀) / 荒金健次(与賀町)